

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 8 月 2 日

【評価実施概要】

事業所番号	0171000433		
法人名	医療法人 英生会		
事業所名	英生会グループホーム ゆめみの		
所在地	江別市ゆめみ野東町3番10 (電話) 011-391-3119		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年7月28日	評価確定日	平成21年8月10日

【情報提供票より】(平成21年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 4月 19日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	11人, 非常勤 7人, 常勤換算 14.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費: 20,000円 暖房費: (11-3月)7,000円 (4,5,10月)3,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要(4月1日 現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	78 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人英生会野幌病院、野幌歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「英生会グループホームゆめみの」は、江別駅から車で5分程で交通の便が良い自然豊かな新興住宅街に位置している。運営者は長年地域医療に貢献し、スウェーデンで学んだ福祉を活かし医療の充実したグループホームを目指して、平成16年に開設している。所長は江別市役所を月に数回訪問し、連携を密にしている。管理者や職員は、理念に掲げている利用者の残存機能を刺激しながらそれぞれの利用者の意志を尊重した個別支援の充実を目指して、日々のケアに熱心に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の取り組みである職員の異動は、離職による介護力の均等を図るためにユニット間で職員一人という最小限の異動が行われたが、利用者の動揺は見られなかった。夜間を想定しての避難訓練は、時間や職員配置を考慮して計画的に行われている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価表は、全職員で項目毎に分担して記入したものを管理者がまとめ、最終的に全員で検討して2ヶ月かけて作成している。自己評価に取り組む事により、日々のケアを振り返る機会となり、地域密着の重要性を意識し理念を考え直す契機になったと感じている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、自治会長、法人役員、地域包括支援センター職員、利用者と家族が参加し2ヶ月毎に開催している。事業所からの報告、自己評価、外部評価の意義の説明や食事会等も開催し、参加者からの意見を取り入れサービスの向上に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の来訪時や外出支援の時に家庭を訪問するなど家族との会話を多くし、意見や不満を聞きのがさないように工夫している。家族からは些細な事も言ってもらえるなど信頼関係も深められている。家族の意見などは申し送りノートに記載し全職員で内容を共有している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、盆踊り大会や婦人部の陶芸教室、お楽しみ会のギター演奏会などに利用者と共に参加している。事業所の夏祭りに近隣の方を招いたり、同法人の小規模多機能型居宅介護で行う利用者の展示会を見に来てもらうなど、地域住民との交流が積極的に行われている。今年度は、家族と地域住民を対象にした事業所独自の勉強会の開催を計画している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「高齢者の残っている残存機能を刺激し、活性化されるために日々の生活を活用し、認知症の緩和、生活の質の向上を図る」という事業所独自の運営理念を開設当初から掲げて、利用者の生活を支えるケアを日々行っている。		全職員で「介護理念十ヶ条」、「基本方針」を基に、地域密着を入れた事業所独自の理念と各ユニットの新しい理念の作成に取り組んでいると言う事なので、その実現を期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、パンフレット、重要事項説明書に記入し、各ユニット事務所、玄関に掲示すると共に全職員は名札の裏に記載し携帯している。各ユニット会議や新人研修、運営推進会議などで取り上げ、理念は全職員に浸透している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、盆踊り大会や婦人部の陶芸教室、お楽しみ会のギター演奏会などに利用者と共に参加している。事業所の夏祭りに近隣の方を招いたり、同法人の小規模多機能型居宅介護で行う利用者の展示会を見に来てもらうなど、地域住民との交流が積極的に行われている。		今年度は、家族と地域住民を対象にした事業所独自の勉強会を開催し、事業所に対する理解を深めてもらうと共に、認知症についての講習会を開催する予定なので、地域住民との交流を深める意味からもその取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表は、全職員で項目毎に分担して記入したものを管理者がまとめ、最終的に全員で検討して2ヶ月かけて作成している。自己評価に取り組む事により、日々のケアを振り返る機会となり、地域密着の重要性を意識し理念を考え直す契機になったと感じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、自治会長、法人役員、地域包括支援センター職員、利用者と家族が参加し2ヶ月毎に開催している。事業所からの報告、自己評価、外部評価の意義の説明や食事会等も開催し、参加者からの意見を取り入れサービスの向上に取り組んでいる。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	所長は、事業所の報告や事務手続きの他に月に数回市役所を訪問し、連携を密にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の様子を伝える個別の手紙と写真便りを家族に郵送している。2ヶ月毎にユニット毎の「さなえ別」通信を発行し、年2回介護情報などを掲載した「ゆめみの」通信も発行している。金銭出納帳は家族の来訪時に毎月報告し確認を得ている。		運営推進会議や会議議事録で職員の異動を報告していたが、全家族に周知されていないので、今後は、事業所通信などを利用して報告するよう期待したい。災害時に対する家族の不安もあるので、避難訓練状況なども知らせて行くよう期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や外出支援の時に家庭を訪問するなど家族との会話を多くし、意見や不満を聞きのがさないように工夫している。家族からは些細な事も言ってもらえるなど信頼関係も深められている。家族の意見などは申し送りノートに記載し全職員で内容を共有している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定期的な職員異動は行われていないが、離職時にユニット毎の介護力のバランスを取るために、経験者の異動を行う事がある。利用者の状況に応じて職員の異動や離職を伝え、動揺が見られた利用者には、職員と一緒にお茶を飲んだり、好きな物を食べたりして気分転換を図るように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、職員の希望も取り入れながら経験年数に応じて計画的に行われている。法人内の研修体制も充実しており、2、3ヶ月毎に医療面等についての研修などが計画的に行われている。今年の6月からはユニット毎、職員が順番に講師となり、毎月勉強会を行うなど内部研修も積極的に行われている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームで「あおいの会」を結成し、職員と利用者が参加するクリスマス会などの交流会や相互訪問、市民向けの認知症講習会などを開催しサービスの質向上に取り組んでいる。他のグループホームの夏祭りに利用者と参加するなどの交流も行われている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前は、可能な限り本人に見学に来てもらったり、管理者が自宅や医療機関を訪問し関係作りに配慮している。利用開始後は、散歩や絵手紙など家庭での過ごし方を継続出来るように配慮し、利用者に合った過ごし方で馴染めるように工夫している。家族の協力を得て、一時帰宅や家族の宿泊などの対応も行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、地元の昔の事や物を大切にすることを利用者から学んだり、労いの言葉をかけてもらう事で精神的にも支えられていると感じている。畑仕事や食器洗い、洗濯物たたみなど、それぞれの利用者に合わせて手伝ってもらおうと共に、利用者が教えてあげようとする気持ちが持てるよう環境作りに配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの思いや意向を把握するためにコミサークルチャートやセンター方式のシートを活用している。日常生活での会話や昔話から本人の思いを察知したり、難しい場合は家族から生活歴などを聞き本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>新規作成の場合は、家族にセンター方式のシートを渡し本人に関する情報の記入を依頼している。また、医療機関や以前に利用していたサービス提供事業所からの情報を含めて、計画作成担当者が初期計画を作成し職員と検討、介護支援専門員が監理している。家族に説明し、本人には心身の状況に応じて説明をしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>一人ひとりの利用者の心身の変化に応じて随時、カンファレンスを行い記録をして他の職員と情報を共有している。センター方式のシートなども活用し3ヶ月毎に定期的な見直しをしている。退院時や食欲の低下などが見られる時はその都度見直し、家族の来訪時に説明をしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制により事業所で点滴などを実施し、入院回避、早期退院を支援している。家族の宿泊や本人が自宅へ外出する時の送迎など柔軟な支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの利用者は、入居前からのかかりつけ医が事業所の協力医療機関であるという事なので、安心して医療サービスを受けている。家族がかかりつけ医への受診支援をする場合は、事業所から情報提供をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	サービス利用契約時に重度化や終末期に向けた方針を文書で説明し、事業所での看取りが可能であることを説明し承諾書を交わしている。また、方針については6ヵ月毎に繰り返し話し合いをしている。		
5. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、定期的に「言葉かけマニュアルリスト」を使って自己チェックをしている。身体拘束廃止委員会、事故対策委員会などの議事録を周知徹底することで対応を学んでいる。氏名の一部のみを個人台帳の背表紙に貼付、記録類はスタッフルームで保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事、おやつ、体操などのおおまかな一日の流れはあるが、本人のペースを尊重し自然な流れで過ごせるようにしている。畑や庭仕事、散歩などに気軽に出かけられるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が交代で1週間の献立を作成しているが、週に2回は利用者の希望献立となっている。利用者と職員と一緒に食材の買出しに出かけたり、テーブル拭きやお米研ぎ、お茶を入れる、食器を下げるなど一人ひとりの力を活かしている。食事中は、懐メロをかけ職員も一緒に食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回以上はゆっくりと楽しめるよう毎日入浴できる体制を整えている。近隣の温泉施設に出かけたり、仲の良い利用者と一緒に入浴することもある。拒否のある場合は、家族の来訪時に本人に言葉かけをしてもらうこともある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ダンボール箱をたたむ、畑や庭仕事、食事の準備や片付けなど各々の役割を持って生活をしている。好きな童謡を歌う、書道をする、喫茶店でケーキを食べる、電話で家族と話すなどの楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調に応じて個別に散歩に出かけている。玄関前に日傘が付いたベンチを置いているので、気軽に日光浴を楽しんでいる。冬季は、立体駐車場のある大型商業施設に出かけたり、そりを使って外出することもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は正面玄関に鍵をかけていない。ホーム内での所在確認と、ユニットの入り口にはチャイムを付けて安全面に配慮している。また、隣接している小規模多機能型居宅介護に利用者の写真と氏名を記載したファイルを渡し、協力を仰いでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>事業所独自の自主訓練として、日中・夜間を想定した避難訓練を行い、役割や流れ、反省点などを明らかにしている。運営推進会議で地域の人々の協力を依頼している。また、2ユニット合同で年3回の訓練を目標としている。</p>		<p>消防署と連携して避難訓練を実施する予定ということなので、その実現を期待したい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>経営母体である医療法人の栄養士に1週間分の献立の栄養バランスについて指導を受けている。1日1200キロカロリーを目安としているが、食欲が低下している時はバナナなどで補っている。水分は1200ml前後を目標に好みの飲み物やゼリーなどで水分量を確保している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間の窓からは、住宅街や駐車場に並んでいる車、花畑や菜園が眺められる。廊下に利用者や職員の写真、手作りの作品などを掲示しているが、利用者の症状に配慮し飾りつけは最小限に留めている。食卓テーブルの横にソファを並べ、ゆっくりテレビや音楽を楽しむことができるよう工夫がなされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室のドアは、部分的に曇りガラスをはめ込んでいるので採光の役割も果たしている。7.2畳の広い居室には、ベッドやカーテン、冷蔵庫、仏壇、椅子などの家具が持ち込まれている。家族が観葉植物の鉢やカレンダー、写真、好きな動物のぬいぐるみなどを置いて居心地よく過ごせるようにしている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。